

山口・長門國府跡（宮の内地区）

ながとこくふ

所在地 山口県下関市長府宮の内地

調査期間 一九九八年度調査 一九九八年（平10）六月～一

九九年三月

発掘機関 下関市教育委員会

調査担当者 水島稔夫・波多野敏郎・高月鈴世・中原周一

遺跡の種類 官衙跡・城下町跡

遺跡の年代 奈良時代～江戸時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

長門国府跡は、山口県下関市の南東部にあたる長府に所在する。

長府は国府が置かれて以降

も都市として整備され、近

世には長府毛利藩の城下町

として機能した。調査対象

地は長門国府跡の中央に位

置する。

木簡は、この地に存在し

た江戸時代後期の建築とさ

れる長屋門の建物基礎石垣



(小倉)

の裏込め内から出土した。この長屋門は、代々長府毛利藩の藩医を勤めた松岡家の邸宅「松嘯館」の門であった。「松嘯館」は文化年間（一八〇四～一八一八）に松岡家がこの地に移つてきた際に建てられたとされ、共伴する遺物も一九世紀前半に比定される。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「○長府松岡道築」

・「○長府松岡道築」

128×37×5 011

札状木製品の完形品。板目取りで四隅の角をとり、上部中央に穿孔する。墨は明瞭で表裏とも同文を墨書する。「松岡道築」とは、一九世紀前半の松岡家八代当主である。調査対象地は、弘化三年（一八四六）の「長府毛利藩城下町屋敷割図」に「松岡道築」邸宅とある地点で、木簡の内容はこれと一致する。

9 関係文献

下関市教育委員会

『長門國府跡（長門

國府跡周辺遺跡群第一

二次発掘調査』（110

〇一年）

（中原周一）

